■岡崎嘉平太　　**実業家。腰の据わった中国通として，戦後，全日空社長の一方，日中貿易推進，友好のために尽力し続けた。**
おかざきかへいた
八幡製鉄始・1897＝　　岡山県賀陽郡大和村で，農業岡崎鶴太郎の長男に生まれる。

尋常小学校1年の頃に自宅が全焼し，吉備郡総社町(総社市)に移住。

日露戦争終・1905＝ 8歳：
満鉄発足・・1906＝ **9歳：**

父が事業に失敗して渡米，まもなく彼地で没したため，貧乏暮しのなかに苦労して，

明治天皇没・1912＝15歳：
岡山中学校を経て，

21ヶ条要求・1915**＝18歳：**
民本主義・・1916＝19歳：**_第一高等学校に入学。**

_この高校時代に中国人留学生と知合い，中国に対する関心を深める。

原敬首相暗殺1921＝24歳：
水平社結成・1922＝25歳：**_東京帝国大学法学部政治学科卒業して，日本銀行に入る。**

護憲三派圧勝1924**＝27歳：**

満州事変・・1931＝34歳：

国際連盟脱退1933**＝36歳：**
営業局次長，外国為替部次長を経て，

日中戦争始・1937＝40歳：**_日中戦争が始まると，**
健保+総動員 1938＝41歳：**_中国通として選ばれて渡華，**
第二次大戦始1939＝42歳：**_陸軍の肝いりで設立された国策銀行たる華興商業銀行(上海)の理事となり赴任。**
_在華時代に見聞と交友関係を拡げ，
日米開戦・・1941＝44歳：
・・・・・・1942**＝45歳：**大東亜大臣となった旧知の青木一男に請われ大東亜省参事官となり日本に戻り，
1943＝46歳：**_汪兆銘政権下の領事館参事官として再び上海に赴き，**

敗戦・・・・1945＝48歳：**_敗戦となる。日本人の引揚げに従事し，中華民国当局との交渉を行って，**
新憲法公布・1946＝49歳：**_帰国。**

1949＝52歳：**_経営危機に陥っていた池貝鉄工社長に続き，**

独立回復・・1951**＝54歳：**_丸善石油社長に天下りし，再建にあたる。
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝55歳：***日本ヘリコプター輸送(全日空の前身)設立で，社長になった同郷の美土路昌一を助けるべく，副社長となるとともに，日中友好貿易の促進に尽力し始め，**
自衛隊発足・1954＝57歳：**_日本国際貿易促進協会常任委員に就任。**

1958＝61歳：墜落事故の影響を受けて会社存続すら微妙な状態になるなか，

安保闘争・・1960**＝63歳：**
ｲﾀｲﾀｲ病始・1961＝64歳：美土路の後を継いで**_社長に就任すると，会社の急激な拡大策をとる一方，**
全国総合計画1962＝65歳：***周恩来と会見，摩承志とLT貿易の協定を結んだ高碕達之助に協力。**

いざなぎ景気1966＝69歳：**_羽田空港沖での墜落，松山沖墜落と立て続けに事故を起こし，責任を追及されて，**
美濃部都知事1967＝70歳：**_社長を退く。以降，日中覚書貿易事務所代表として訪中を重ねて行き，**
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝71歳：**_古井喜実・田川誠一らと協力して日中覚書貿易の推進に努力，**
全共闘・・・1969**＝72歳：**

ﾄﾞﾙｼｮｯｸ・・ 1971＝74歳：**_中国側の主張する日中復交3原則に積極的に賛意を表して日中覚書貿易共同コミュニケを実現させ，**
日中国交回復1972＝75歳：***日中国交正常化が実現した際には，周恩来首相から特別招待された。**
石油ショック1973＝76歳：
その後も日中経済協会常任顧問として日中貿易に携わり，生涯訪中回数は101回に達する。この間，右翼団体から各種の妨害・脅迫を受けたが，泰然自若かつ毅然と応対し，赤尾敏とは一緒に会食するほどの仲となる一方，政界からの誘いは全て断るなど，民間人の筋を通し，

成田衝突・・1978**＝81歳：**
竹下登内閣・1987**＝90歳：***全日空の中国路線参入に際し，90の高齢ながら初便の北京行きに乗込んで，かつて周と交わした'全日空での中国訪問'の約束を果たして，**
昭和天皇没・1989＝92歳：自宅階段で転倒して頭部を強打し，急性硬膜血腫のため，**_没した。**
思想的には中華人民共和国一辺倒ではなく，大きな視点からは孫文・蒋介石・周恩来らはみな同じ考えと同一視し，国共間の政治問題に日本が深入りしないよう警告を繰り返した。
インターネットWikipedia，